

事務事業チェックシート

事務事業No **708** 事業名 **第二特別展開催事業**

[事業基本情報]

分野別目標	5	子どもが輝き、文化が薫る教育のまち
政策	4	文化・スポーツの振興
施策	1	文化遺産の保護・継承
基本方針	2	文化遺産の公開・活用

事業区分(1)	事業経費	○	管理経費	
	その他			
事業区分(2)	自治事務	○	法定受託事務	
	その他			
会計・予算区分	会計		一般会計	
	款		教育費	
	項		社会教育費	
	目		博物館費	
	大事業		博物館事業	
事項		第二特別展開催事業		

事業種別	継続	主な事務事業	○
事業期間		～	
事業実施の根拠法令			
関連個別計画			
担当課・担当課長 (Tel)	博物館	額田 雅裕(423-0003)	
関連課			

「3つの約束・44の約束」との関連性

3つの約束	産業を元気に	まちを元気に	人を元気に	非該当
			○	
44の約束	地元教育の推進			

1 事業概要及び実施内容

事業概要	事業目的（「誰・何」をどういう状態にする」ための事業か）	事業内容				
	和歌山に関して地元に着したテーマを設定し、貴重な博物館資料で展覧会を構成することによって、市民文化の向上に寄与する。	会期を夏季(7月～11月)に、公開日数を30日程度で設定し、展示資料を原則的に和歌山市内及び周辺から借用して展覧会を構成する。なお、和歌山市立博物館条例第4条に基づき、特別展開催中は入館料を改定する。				
実施内容		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
		紀伊半島西岸を形成する和歌山県は古くから海と深く係ってきた。今回は「海人の世界一発掘された海辺の暮らし」をテーマに特別展を開催する。	和歌山県は全国的に有名な荘園を有することから荘園を理解するため、特別展「荘園の景観と荘園絵図」を開催する。	この展覧会は、紀の国和歌山国体の開催を期に近代スポーツの黎明期から黒潮国体の開催まで、国体を中心とした和歌山のスポーツ史の流れを概観し、戦前のオリンピックや明治神宮体育大会、戦後の国体を照会する。	和歌山に関して地元に着したテーマを設定し、貴重な博物館資料で展覧会を開催する。	和歌山に関して地元に着したテーマを設定し、貴重な博物館資料で展覧会を開催する。

2 事業コスト

		平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度		
		当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	計画	決算	計画	決算	
事業費等 千円	事業費	5,945	5,467	4,260	4,292	4,260		4,260		4,260		
	伸び率 (%)	-	-	-28.3%		0.0%		0.0%		0.0%		
	人件費	常勤職員	5,793	7,294	7,294	5,993	7,294		7,294		7,294	
		非常勤職員	477	472	472	853	472		472		472	
		小計	6,270	7,766	7,766	6,846	7,766		7,766		7,766	
	国庫支出金											
	県支出金											
	市債											
	その他	1,000	1,307	1,000	356	586		1,000		1,000		
	一般財源(税等)	4,945	4,160	4,160	3,936	3,674		3,260		3,260		
所要人数	常勤職員	0.78	0.98	0.98	0.79	0.98		0.98		0.98		
	非常勤職員	0.24	0.24	0.24	0.47	0.24		0.24		0.24		
主な予算内訳												

3 目標及び実績

	指標名及び達成状況				平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
	単位	日	全体目標値	全体目標達成度	年度目標値	実績値	年度別達成度	年度別達成度	年度別達成度
活動指標	第二特別展開催日数				44	44	44	44	44
	単位	日	全体目標値	44	全体目標達成度	38	32		
					86.3%	72.7%			
	単位		全体目標値		全体目標達成度				
成果指標	第二特別展入館者数				2,200	2,200	2,200	2,200	2,200
	単位	人	全体目標値	2,200	全体目標達成度	1,474	1,175		
					67.0%	53.4%			
	単位		全体目標値		全体目標達成度				

4 事業の評価

評価基準					
[妥当性]事業のニーズはあるか	○	増加している		横ばい	減少している
[妥当性]事業手段は妥当か		現行の手段でよい	○	一部見直しが必要	見直しが必要
[妥当性]官民の役割は妥当か	○	市が行うべき		他の主体との協働も可能	市が行う必要性は薄れている
[妥当性]緊急的に取り組む必要はあるか		急いで取り組む	○	中長期的に取り組む	緊急性は薄い
[有効性]更に効果が期待できるか	○	できる		あまりできない	できない
[有効性]成果目標はどの程度達成しているか	○	達成している(90%以上)		おおむね達成(70~90%未満)	達成していない(70%未満)
[有効性]上位施策への貢献度		重要かつ高い貢献度がある		一定の貢献度がある	貢献度は低い
[効率性]事業費を抑制できるか		できない	○	制約はあるが可能性はある	できる
[効率性]受益者負担の見直し	○	適正		負担は求められない	見直しが必要

5 今後の方向性 (担当課評価)

事業内容の方向性	充実				
	現状維持		○		
	縮小				
	廃止				
		ゼロ	縮小	現状維持	拡大
コスト投入の方向性					

担当課評価の根拠	日本画会を代表する画人である川端龍子が本市の出身であることや、本市に愛着を持ち様々な施設等に絵画を寄贈されている事実が今回の特別展覧会を開催することにより、一部の市民ではあるが、注目され、この展覧会を機に本市出身の先人の偉業に興味を持っていただくよい機会となったと考える。
「見直し」 「改善」案	アンケート調査等により、市民のニーズをとらえ、展覧会テーマの設定に反映させる。